

出張報告

報告日 令和6年 8月 5日

会 派 名	柏盛クラブ
報告者氏名	重野正毅
種 別	☐ 調査研究（ ☐ 行政視察） ☒ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用 務	決算は語る①
日 時	令和6年7月13日（土） ～
場 所 （会場）	映像視聴で研修
調査項目等	・役所から見た決算委員会 ・議員がすべき決算の活かし方 ・決算で聞くべきこと、聞いてはダメなこと
概 要	○役所から見た決算委員会 ・議員として大いなる見せ場 行政としても議員評価を行っている 行政は委員長の議事進行（捌き）にも注目している ・数字を見て、前年度と開きがあれば普通に質疑を受けるもの ・委員会の場が政争の具にされている印象を持つこともあった ○議員がすべき決算の活かし方 ・効率性や必要性、行政の無謬性を問う場である やめたいけどやめられない事業もある ・決算から見える自治体運営の実態を見据える場 地域課題に寄り添っているか ・地方財政制度についても把握しておく 地方財政に関する基礎的知識があれば、財政的な質問のリアリティが増す ○決算で聞くべきこと、聞いてはダメなこと ・確実に聞くべきこと 前年度決算額と大きく変わっている事務事業、不用額の多い事務事業、全国自治体共通トレンドの事業、自治体固有の状況による事業、など ・聞いてはダメなこと どんな施策事業にも費用対効果を問う、自分の好みや感覚での批判、今後の方向性や決意、など

所 感 等	【重野正毅】 決算審査の場では議員の力量（委員としても委員長としても）が評価される一面もあることを自覚し、勉強をして臨むことはもちろん、根拠ない質疑をしたり、成果を否定するだけの市民不在の分科会質疑にならないようにしなければならないことを強く意識できた。そして、決算審査では適正な事務事業執行をチェックするだけでなく、その事務事業の効果を問う場であるため、アウトカムの視点をもって質疑に臨む必要があると改めて思った。また、「決算カード」を活用して自治体の強みや弱みを把握して決算審査以降の議員活動に生かさなければならないとも思った。 決算審査における NG 質疑が「今後の方向性」などであることは理解できるが、次年度の予算に反映させるためには自分の意見を上手に含めた質疑を行うということも戦術だと聞き、質疑を組み立てて分科会に臨んでいくことの大切さを感じた。また、質疑をするときには確実な根拠に基づくことが求められており、質疑の時の市民からの声とか報道で見たという言葉は一見議員活動を頑張っていると思われがちだが、質疑の根拠としては全くの不十分なもので正確性も欠くことだということも知ることができた。 決算審査の場だけではないのだろうが、議員としての市民へのパフォーマンスの場ではなく、地域の課題解決に適切な事業なのかということを質していくという姿勢で臨むべきだということを痛感した。
--------------	--

会 派 名	柏盛クラブ
報告者氏名	重野正毅
種 別	☐ 調査研究（ ☐ 行政視察） ☒ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用 務	決算は語る②
日 時	令和6年7月13日（土） ～
場 所 （会場）	映像視聴で研修
調査項目等	・役所に刺さる良い質疑の実例 ・行政の急所にテキサスヒットする質疑 ・令和5年度決算で必ず聞くべき事業
概 要	○役所に刺さる良い質疑の実例 ・行政が聞かれたくない事項とは 改善のため経費投入しても実績が上がっていない 解釈の分かれるトレンドや課題を違う方向から ・類似事務事業を指摘 ・まず評価すべき点を評価したのちに課題を指摘 ・実績数字だけではなく、取組みを聞く ○行政の急所にテキサスヒットする質疑 ・他の公的機関との連携不足を指摘する 社会福祉協会へ福祉関係は丸投げしていないかなど ・一般質問等を再チェックし、検討するとした事業の進捗を聞く ○令和5年度決算で必ず聞くべき事業 ・定番ポイント あらゆる事務事業を対象に、実績、成果、効果、課題等 歳入において基準財政需要額と実際の予算決算の差異 ふるさと納税の推移だけでなく、税収への影響や返礼品事業者の確保 ・各種契約における随意契約の状況や理由 ・首長の所信表明関連 ・全国的なトレンド政策 災害、子育て支援策、教育振興、治安対策（オーバーツーリズムなど）、医療費助成、DX活用、高齢者の外出支援、など
所 感 等	【重野正毅】 決算質疑としては実績を質すだけでなく、その事業を行ったプロセスや取組内容を聞かなければその事業の本質も分からなくなる。事業を行うための実態把握の状況や

そこから得られた課題、それを事業に落とし込むための担当課での検討内容を順次聞くことで、担当課の取組を適切に評価することが大切だと感じた。また、一般質問との継続性を確認する場にすべく、自分の一般質問だけではなく、分科会が所管しているところの質問で、「検討する」という答弁をしたものについて追及していくことも必要だと思った。

事務事業に関してはアウトプットだけでなく地域への波及効果を含めたアウトカム評価の観点からその事業を質していくことが必要だと感じている。これを含め課題となったことを聞いたのち、議員個人の事業に対する評価を加え、担当の所見を聞くという流れで質疑を行うことで、次年度予算へ反映されるとのことだった。こういう質疑は事前に準備を行わなければ中途半端になる危険もある。

今回は、決算審査について役所の視点から議員はどうあるべきなのかを勉強できた。行政も議員も市民の福祉の増進が最終目的であるはずなので、行政の失点を探して手柄にしようとするものないように、もしそういうことに気づいたら事前に担当課に伝えるようにしていくことで、互いに地域発展のために高め合う関係になっていかなければならないと思った。議員としては、「情報を持っている議員」ではなく「知識のある議員」でもなく「教養のある議員」からさらに「文化的素養のある議員」になれるようにしていきたい。